

令和4年度 校内研究について

1 研究主題について

主体的に学び、確かな学力を身につけた小栗っ子の育成

～国語科の読むことを通して読解力の向上を図る授業づくり～

○主題設定の理由

昨年度は、一昨年度と同じ研究主題、さらなる学びの「見える化」を目指して、研究に取り組んできた。特に、大きく5つの「見える化」を具体的に示し、全体仮説に迫った。

本校で取り組んできた「見える化」とは、本時や単元全体、1年間の学習内容の足跡が、児童だけでなく教師にも視覚的に理解できるようにすることである。

学習環境部では、算数における技能の個人差を小さくするため、スキルタイム時の支援体制を整備したり、内容（難易度）や量についても各学年で検討したりして、改善を図った。その際、担任だけでなく全職員で対応することで、個別の取り出しが可能となり、個のつまずきを把握し、指導につなげることができた。しかし、今年度はスキルタイムが設定できないため、別の方法で個別指導について検討する必要がある。(課題・つまずきの見える化)また、昨年度も引き続き、「小栗っ子パワーアップカード」を学期に1回取り組み、家庭学習の定着と学習態度の改善を目指した。昨年度は、カードに各学年の「家庭学習の手引き」の内容を抜粋して掲載したり、前学期と比較できるように取組カードを重ねて貼付したりしたところ、児童・保護者への周知は昨年より徹底され、前回できていない項目に対して親子で改善しようという姿勢も見られた。また、各学年による集計結果をもとに、学年全体で重点的に改善すべき項目が明らかとなり、学年に応じた指導ができた。(家庭への見える化)一昨年度作成した職員用の「小栗小学校の学習規律」をもとに、昨年度は年度当初に全職員へ周知徹底を呼びかけ、学期毎に反省を行った。また、児童への周知徹底を図るため、教室掲示物（筆箱の中身、机上の準備の仕方、話し方・聴き方の約束）を作成したところ、学年間で多少差があるが、学習に向かう態度は全体的によくなり、習慣化してきた。(学習規律の見える化)昨年度は、GIGA スクール構想の実現に向けて、タブレット端末型パソコンの活用も一つの研究課題として取り上げた。そこで、研究の専門部にICT活用部を立ち上げ、現職教育として2回の研修を行った。初歩的な操作の仕方から授業での活用まで一通り研修を積み、教育活動全般において日常的に活用できるようになってきた。特に、コロナ禍での話し合い活動への制限がある中、ICTの活用は非常に有効であったと考える。(ICTによる見える化)

授業実践部では、1単位時間の学習過程や身に付けさせるべき力を把握した上で、昨年度は「書く」という言語活動に焦点を絞り、学び合いの場の検証を行った。何のために書くのか（目的）、何を使って、どのように書くのか（手段・方法）を各学年で明確にした上で、ワークシートや小集団での話し合い活動を工夫し、自分の考えや友達の考えの見える化に臨んでいたため、思考の見える化は達成できていたと思う。さらに一歩進んで「思考の深化」までつなげることができたら、児童の思考力・判断力・表現力等を大きく向上させることができると考える。(授業における思考の見える化)

5つの「見える化」により、学習に必要な素地が形成されてきたという成果が得られたが、解決すべき課

題もある。

教研式 NRT 学力テスト（2・3・4年生）や長崎県学力調査（5年生）、全国学力・学習状況調査（6年生）の結果の分析及び考察を各学年で行い、本校児童の学力の実態を明らかにした。その結果、国語科、算数科ともに全体的に全国平均を下回るか、同等程度であった。特に、国語科では、全学年において「読むこと」の説明的文章の読み取りの正答率が低く、さらに3学年が「書くこと」の領域において大きく下回るということがわかった。算数科では、「知識・技能」の観点においてはほぼ平均的だが、全学年とも「思考・判断・表現」の観点が全国を下回っており、条件に基づいて、論理的思考を働かすことができないことがわかった。この結果から児童の文章読解力に課題があることが推測される。

成果が上がった「見える化」を引き続き行うと同時に、研修による職員のスキルアップを図り、児童の最重要課題である読解力を向上するために、教科を国語科、領域を「読むこと」の説明的な文章に絞り、小栗小学校全体の読み取りの型を作ることで、児童と職員に定着、浸透させ、確かな学力を身に付けさせていきたい。

以上のような理由から、今年度も引き続き、研究主題を「主体的に学び、確かな学力を身につけた小栗っ子の育成」とし、サブテーマを「国語科の読むことを通して読解力の向上を図る授業づくり」と設定したい。

本校の学校教育目標は、「命を大切に、耐性と学力を身に付け、友と協働できる子どもの育成」である。

そして、目指す児童像としてお・ぐ・りの「おおきなところで（徳）」、「ぐんぐんのびる（体）」、「りっぱなかんがえ（知）」の3つがある。本研究を通し、この3つについて、次のような視点から具現化を図ってきたい。

○おおきなところで（徳）

仲間のよさを認め合い、互いに支え合いながら表現活動を行うことの喜びを味わうことができるような指導・支援の在り方を工夫する。

○ぐんぐんのびる（体）

互いの考えを最後までしっかり出し合い、認め合えるような学習集団づくりに努め、人との関わりの中で思考力・判断力を高めることができる学習活動を計画する。

○りっぱなかんがえ（知）

自分の考えをもち、主体的に対話的に表現（実践）しようとする意欲をもつことができるような指導・支援の在り方を工夫する。

子ども一人一人の心に響く授業改善や各専門部の研究を通して、上記のような子どもの育成を図りたい。

2 研究の仮説について

(1) 全体仮説

- 学習環境を充実させ、国語科の読むことの説明的な文章の読み取りの型を定着させることを中心とした授業を意図的に仕組めば、子どもたちは主体的に学び、確かな学力を身に付けることができるであろう。

(2) 全体仮説についての取り組み

①学習環境の充実（学習を支える土壌作り）

○学習環境の整備・学習規律の周知徹底、見直し

※学習規律の見える化

- ・国語、算数の課題改善に向けた学習掲示板の活用
- ・話し合い名人カードの掲示、活用
- ・おすすめ読書コーナーを設け、並行読書を推進する。
- ・「小栗小学校の学習規律」の定着に向けた取組

○家庭との連携強化

※家庭への見える化

- ・「家庭学習の手引き」配付、見直し、活用チェック
- ・「おぐりっこパワーアップカード」配付、集計、見直し

○GIGA スクール構想の提案、促進

※ICTによる見える化

- ・GIGA 担当を中心に、GIGA スクール構想についての研修
- ・タブレット型パソコンを活用した授業提案

○児童理解の充実

- ・特別支援教育の研修会を開く。（ビジョントレーニング等）

②ねらいを明確にした「学び合いの場」の設定

※授業における思考の見える化

○国語科「読むこと」領域の説明的な文章の構成の見える化

- ・「**ゴールの見える化**」・・・単元導入時に、本学習を通して身に付けさせたい読解のスキルを明確に示す。

- ・「**読み取りの技の見える化**」・・・低・中・高学年に応じた読み取りの視点

（小学校学習指導要領解説 国語編 第2章国語科の目標及び内容 C 読むこと

指導事項 構造と内容の把握、精査・解釈）を中心に、把握するための技法を活用し、教師と児童双方にとってわかりやすい型の作成・定着を図る。

（例）●文の構造を捉える 低学年・・・読み取りの魚、中・高学年・・・読み取りの家

●接続語、文末表現の把握

- ・問いかけの文「～でしょうか。（～だろうか。）」など
- ・具体例「例えば、～」など
- ・筆者の意見や考えを表す文末表現「～と思う（考える）」「～ではないだろうか」

第1学年及び第2学年・・・内容の大体を把握する P.69～

文章の中の重要な語や文

第3学年及び第4学年・・・考えとそれを支える理由や事例との関係などを把握する P.108～

中心となる語や文を見付けること

第5学年及び第6学年・・・文章全体の構成を捉えて要旨を把握する P.146～

必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること

3 研究の構想

(1) 研究の方法

①全体会、専門部の活動をもとに、学年部会別に理論研究・実践を通して、全体仮説の検証へとつなげていく。

○研究推進委員会

- ・研究推進のために基本的な研究の流れ、研究内容の提案を行う。

○授業研究

- ・全体研究会及び学年部会を開き、授業研究を中心に行う。
- ・研究主題に迫るために、低・中・高学年より1名ずつ全体授業を行い、他は部会授業とし、仮説について協議を深める。同学年で事前授業などを行う。
- ・全体授業は全職員、部会授業は部会員が参観する。また、全体授業後は、授業研究会を行う。

○研修会は、毎月1回、第3週または第4週の木曜日 15:45~16:30 に行うものとする。

②児童の学力の実態把握を行い、指導に生かしていく。

○全国学力、学習状況調査（6年生）や長崎県学力調査（5年生）、各学年の教材テスト等の結果の分析及び考察を行い、児童の実態を明確にする。

③GIGA スクール構想研修会を開き、タブレット型パソコンを利用した学習補助について学び、指導に生かしていく。

④各種研究会への参加及び先進校視察を行い、全職員に伝達し、情報を共有する。

⑤研究の成果や課題を「研究集録」としてまとめる。（PDFで保存）

4 研究組織

